

名古屋丸の内ロータリークラブ Weekly Report

例会場 名古屋グレストンホテル TEL 052-264-8000
 例会日時 木曜日 12:30
 クラブ会報広報委員長 横田 佳奈
 HP <http://rc.nagoya-seinan.org/>

2020-21年度RLテーマ
 会長 ホルガー・クナーク



ロータリーは機会の扉を開く

承認 1995.3.28
 会長 成田 勝彦
 幹事 恵利 有司
 事務局 名古屋市中区栄3-29-1
 名古屋グレストンホテル 1007号
 TEL 052-263-1324
 FAX 052-263-0730
 Email seinan1@fancy.ocn.ne.jp

成田勝彦会長 年度目標 : “一致団結” 和気あいあいと仲よく楽しく過ごそう

第 1146 回 例会 No. 3 令和 2 年 7 月 30 日 (木)

- ロータリーソング 「それでこそロータリー」
- 出席報告 会員46名中21名出席
- 出席率 50% 出席計算人数42名
- 修正出席率 7月2日 95.35%
- ゲスト 今村さんゲスト 小野素尊 氏
 グローバル補助金奨学生
 18-19年度 市川智也さん
 20-21年度 古谷優香さん

会長挨拶

成田勝彦

皆さんこんにちは。
 本日はグローバル補助金奨学生の市川さん、古谷さんにお越しいただいております。それからゲストの小野さんよろしくお願ひいたします。
 本来なら今頃、東京オリンピックで日本だけではなく世界中の皆さんが盛り上がりいただろうと思います。
 皆さんはどの競技に関心をお持ちですか？私はスポーツ鑑賞が大好きで、いろいろな競技の観戦に応募しましたけれども、たまたまボートの決勝とパラリンピックの車椅子のレースの予選と決勝に当選しました。本当に楽しみにしております。
 しかしまだまだ競技の選考が中断しているために、約7割の選手が未定とのこと。
 アスリートは様々な人に支えられておりますが、ぶれない姿勢で毎日打ち込みながら進めると言う事は、本当に大切だと思います。
 実際には大変であり、強い精神力がないと難しいかなと言うふうに思っております。
 財政面でも不安があり、コロナによってスポンサーの撤退や、開催延期によって莫大な追加費用がかかり、この減収の補填は東京都が負担するのか、JOC がするのかIOC がするのか、それとも私たち国民に充てられるのか、色々な問題に直面しています。しかしそれなりにきちっと明確にしていかなければなりません。日本のオリンピックが皆さんにとって素晴らしい希望の光になってほしいと思っております。以上です。

次回例会予定

- 8月全体会

コロナ感染予防のため、期初の予定を変更して8月中は休会と致します。(理事会は開催します)

ニコBOX

●本日は地区ロータリー財団のグローバル補助金奨学生よりお話を伺います。市川智也さん、古谷優香さんどうぞよろしくお願ひ致します。

成田会長、恵利幹事、小原、安江、岩田、堀江亮介、今村、田中、長谷川、河原、水野、西川、松尾、立石、磯部、高山、佐久間(敬称略)

本日合計 37,000円

卓話

◎卓話者ご紹介

田中如以

皆さんこんにちは。今年度グローバル奨学生・平和フェロー委員をさせていただいております田中でございます。今日は、今年度のグローバル補助金奨学生の古谷優佳さん、一昨年から昨年にかけてグローバル補助金奨学生として海外へ留学されていた市川さん、お二人にお越しいただいております。本年度古谷優佳さんに関しましては、私どもの名古屋丸の内ロータリークラブが、お手伝いさせていただくことになりました。それで9月にはイギリスの方へ立たれますのでそのご挨拶と、留学に向けての今どんな思いでいらっしゃるのかと言うことを、お聞きしたいと思います。また市川智也さんからは、留学をした経験をもとに、今また新しく羽ばたこうとしている。そんな思いを伝えていただけたらと思います。それではどうぞよろしくお願ひいたします。

20-21 年度グローバル補助金奨学生 古谷優香



皆様はじめまして。本年度グローバル補助金奨学生としてイギリスのサセックス大学に留学させていただく、古谷優佳と申します。本日はよろしくお願ひいたします。最初に、簡単な自己紹介といたしますか大学院に進学する

経緯についてお話しさせていただけたらと思います。私は愛知県名古屋市の金城学院中学と高校に通いまして、そこで勉強しました。中学に入学する直前に祖父母と一緒にハワイに旅行に行く機会があり、その際に自分が英語があまりできずにうまくコミュニケーションが取れないと言うことに悔しさを覚えて、中学では英語の勉強頑張ろうと思ったのと、教員にすごく憧れがあったので、将来は英語を使って、何か教育に携われるような仕事がしたいと言う思いでいました。高校1年生の時に叔母が叔父の仕事の都合でタイに住んでいたため、その際にタイに2週間、英語の勉強と言う名目でアメリカンスクールに通ったことがありました。その際に英語を学んだと言う事と同時に、貧富の差と言うものを同時に学ぶことができました。叔母が住んでいたような日本人が住んでいるようなところでは、すごく綺麗で家もまるでホテルのような感じで駅の近くにあるデパートも日本のデパートよりも全然大きくてすごくびっくりしたのですが、その一方でタイの北部のほうに平日遊びに行った際に、平日の昼間にもかかわらず、家族が営んでいるレストランを手伝っている子供がいたり、トイレも水洗式のトイレではなく自分で流すというようなトイレしかなく、そういう世界があるということに衝撃を覚えました。その経験がきっかけで、大学では教育と発展途上国の教育について学ぶことがしたいと思い、東京の国際基督教大学に進学しました。そこでは4年間寮に住んでいましたが、様々なバックグラウンドを持つ世界中からの学生と一緒に4年間生活をして、自分が今まで22年間、ほとんど日本で生活してきたものは、すごく小さな世界で自分が信じていることとか当たり前だと思っている事が全然当たり前じゃないんだと言うことを、日々一緒に生活していく中で学ぶ機会がすごくあって、今回この海外の大学院で学ばせていただくと言うことを決めたのは、そういった意味でも自分と同じ志を持って途上国とかの教育を変えていきたいと思っている学生が多く集うサセックス大学で、自分の専攻である勉強をより深めていきたいという思いからでした。大学院では主に、国際教育と開発と言う分野を専門に学びたいと考えています。特にロータリーの4番目の国際的な教育と言う所にもつながるのですが、今世界では教育の就学率と言うのはすごく上がっているのに、その一方で女性や貧しい人たち、そして障害者などのまだ一部の人たちが十分に教育を受けられていないと言うことに、私は問題意識を持っています。こういう背景から私は大学院では、特に地域社会が教育の学校運営に参加していると言う名での、学校教育における教育の公平性について、修士論文を書けたらいいなと思っております。大学院を卒業した後は途上国の教育に関わる仕事をし、将来的には博士課程に進むことも考えています。そのあとは教育の専門家として、地域社会と一緒により良い教育を届けていこうとがんばっている人たちと一緒に、より良い社会を作っていけるように貢献できる人になりたいと思っています。繰り返しになりますが、このたびは私をホストクラブとして受け入れてくださり、グローバル補助金奨学生として学ぶ機会を与えてくださり本

当にありがとうございます。短いですがこれで終わりとさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

18-19年度グローバル補助金奨学生 市川智也



皆さんこんにちは。2018年の夏より愛知県のグローバル補助金奨学生として、イギリスのマンチェスター大学に留学させていただいておりました、市川智也と申します。本日は私の現地での経験と、その後の現在取り組んでいる事についてご報告させていただければと思います。

まず簡単に私の自己紹介になります。平成元年に愛知県豊橋市で生まれまして、今年31歳になります。これまでの経歴としましては、大学1年の時に南アフリカの大学に一年留学しまして、新卒で、SAT ジャパンというドイツのIT企業の東京本社に就職しました。その後、ジャイカの青年協力隊として、2年間セネガルに行っておりまして、そして一昨年1年間、イギリスのマンチェスター大学に留学させていただいておりました。現在はバングラデシュにある日経IT企業の責任者として、システム開発とか、外国人、主にバングラデシュ人になりますが、日本企業様への人材紹介を行っております。

私が、途上国といいますか、こういった地域の国際開発に興味を持ったきっかけとなったのが、南アフリカへの留学でした。大学に入るまでは野球一筋で、小学3年生から10年間ずっとやっていたのですが、いざ大学に進学するといったタイミングで、たまたま先輩との出会いがあり、アフリカに興味を持つようになりました。

18歳19歳の時に国連職員の方ですとか、外務省の方の講演やセミナーに足を運ぶ機会がありまして、その際自分自身も一年間現地に滞在して貧富の格差ですとか、貧困というのがどういった状況になっているのかと言うのを、自分の目で見てこようと、南アフリカに留学してきました。一年間の中で、当時20歳でしたが、アフリカですとか経済格差の是正といったところに、自分の人生を費やしていこうと言う決意をいたしました。

就職活動では外資系のIT企業から内定をいただいて、東京で、デジタルトランスフォーメーションという、今、コロナで注目されているいわゆる企業のIT化などを、もう7年前からですけども、法人営業をしておりました。そこから3年ほど経った時に、やはりもう一度現地に戻って、自分自身が何ができるのかというのを見に行きたいと思い、ジャイカの青年海外協力隊としてセネガルに赴任しました。現地での活動は、コミュニティ

一開発隊員は現地へ行って、何かコミュニティーを作る活動をしてくださいと言うような部隊でして、私は日本で言う JA の農業協同組合に配属されました。今までの人生で農業もわからなければ、ウォロフ語と言う現地語とフランス語を使うわけですけれども、フランス語も 0 から勉強して、農業のこともインターネットで調べてと言うような形で、本当に 2 年間の間に何かできるのかなと言う状況からのスタートでした。

足しげく村の農家さんの様子を見に行き、畑を耕したりとか、そういう中で、彼らがいわゆる経済学で言うところの情報の非対称性と言うので、仲買人と農家さんの間に、持っている市場の情報の格差があると言うことで、農家さんが既得意損失を多く生み出していると言うことがわかりました。そこで農家さんと一緒に市場調査を行って、より利益率の高い野菜を高く売れる時期に売ろうと言うような活動をしていて、2 年間で最終的には彼らの収入を 2 倍にすることができました。現地にいるときにありがたくも、国連職員の方ですとか外務省ジャイカの方々と非常に近い距離で交流させていただく機会に恵まれまして、やっぱり国際協力途上国開発の舞台でプロフェッショナルとして、第一線で活躍していくためには、大学院に進学をしたいと思いましたが、正直経済的な理由でなかなか難しいんじゃないかなと言う気持ちもありました。たまたまセネガルに私の前に行っていた先輩隊員がパリの大学に留学した方がいまして、その方はロータリーの奨学生ではなかったんですが、その方がロータリーの奨学金に絶対応募したほうがいいよと言ってくださって、セネガルから Skype で、当時グローバル補助金の委員長だった長谷川龍伸さんと会話をさせていただいて、選出していただきました。本当にロータリーのグローバル補助金がなかったら、イギリスの大学へ留学というのは実現することができなかったもので、本日こうして皆様へのご報告と、今後もっと社会にロータリーの素晴らしさや、補助金の魅力というのを発信し続けていきたいなと思っております。留学先はマンチェスター大学でしたが、大学院で学んだことは、新卒で SAT と言う IT 企業に就職したこともありまして、今後はますます重要といえますか、社会で抜きでは語れないという IT を武器に、どういう風に国際開発を進めていくか。と言うのを一年間勉強してきました。実際に幅広い分野でもう IT なしでは生活が成り立たない。特に昨今のコロナショックでリモートやズームで会議するとか、もう少しさかのぼると教育分野でしたら e-learning、農業分野でしたらパブリテックというドローンを使うなどの、いろんな需要の勉強をすることで、自分自身の知識をつけさせていただきまして。

一番大きな学びとしましては、現地の方々のインターネットの環境ですとか、スマートフォンを持っているのか、スマートフォンを使いこなせるのかというような IT リテラシーですとか、国の状況に合わせて ICT のプロジェクトを立ち上げないと、結局は現地の人たちに定着せずに終わってしまうと言うのと、2 年間の体験を原体験として、その上でイギリスで勉強させていただいた IT の力を、今後とも発揮していこうと思っております。



ロータリーの活動ですが、現地に行ってからマンチェスターの地区の方ですとか、いろんな方が暖かく迎えてくださって、すごく印象的だったのが、現地に着いて 1 ヶ月後にイギリス中のグローバル奨学生が一堂に返す機会がありました。確か日本人が 20 名位でアメリカ人が 40 名ぐらいでしたが、本当に皆さん名門大学の大学院で、ロータリーの重点分野に該当する項目を勉強されていて、ここで繋がった友人とは今でもコンタクトを取っていて、一緒にお互いを高めあって世界を変えていこうと思っています。大体 2 ヶ月に 1 回ぐらいは例会に参加させていただいたのですが、マンチェスター大学の中にロータリーアクトと言う青年部がありまして、大学のサークルみたいな感じでしたが、その代表をされていたのがイタリア人の女性です。ルーマニア、香港、中国というような本当にいろんな国からマンチェスター大学で、ロータリーの代表でしたりロータリーの理念に共感して地域活動を行っていこうと言う、同世代の方がいっぱいいて、彼らとの交流も印象に残っています。一番記憶に残っているのが、韓国の、自分で料理を作って地区の方にふるまおうというイベントがありまして。それが記憶に残っております。昨年の夏に戻ってきまして卒業論文を提出して、大学院は卒業となりました。昨年の秋、帰国報告会と言うのをさせていただきましたが、その時はまだ就職先が決まっていなくて、奨学生として留学させていただいたにもかかわらず、すごく情けない惨めな思いがいっぱいだったんですが、せっかくこれまでいろんな国で自分なりにベストを尽くして、頑張ってきたので、海外で途上国に駐在してできる仕事と言うのと、IT の分野の両方を生かせる仕事と言うことで、フォローアップして就職活動していたところ、縁がありまして現在勤務先の日系 IT 企業のバングラデシュ法人の、現地責任者として今年の 1 月から現地に行っています。具体的な仕事内容ですが日本の本社と子会社と言う形で、日本のお客様のシステムやアプリを、バングラデシュ人のエンジニアたちに作ってもらうという業務を行っております。それと並行してジャイカのバングラデシュ人 IT エンジニアを日本企業に紹介するというプロジェクトの、就職支援の活動もやらせていただいております。最後にその他の活動として、最近たまたま Facebook の広告で見つけた、アーバンイノベーションジャパンという取り組みがありまして、もともと神戸市から始まった取り組み

みなんですが、地方自治体の社会課題行政課題というのを一緒に考えて取り組んでいきましょう、と言うものです。これを先月見つけまして私は今、愛知県豊橋市の実家からリモートワークで仕事をしているんですが、豊橋市がこの取り組みに応募するということで、道の駅のシェアキッチンの稼働率を増やしたいという要請に対して、私の提案を出しました。まだ最終結果を出していないんですけども、書類選考が通りまして、先日面接をさせていただきました。その上で明後日31日までの締め切りで、名古屋市もこの取り組みに応募するというので、名古屋市は内閣府のグローバルスタートアップ拠点。名古屋市がアメリカのシリコンバレーのようなスタートアップのエコシステムを作っていく街にしていこう、ということで、このウィズコロナアフターコロナの時代に、ITを活用してどうより良い社会を作っていくか、と言う課題に対して今週の月曜日から知恵を絞って企画書を書いております。

また、これは趣味の領域になってしまうんですが、オンラインスクールを4月から立ち上げてまして、こういった大学院留学ですとか協力隊の中で自分自身が経験したことを、次の世代に還元していきたいということで、週に1回オンラインレクチャーをしております。

ロータリーのIT活用と言うことで、こんなにも素晴らしいグローバル補助金制度を20代前後の人たちが認知していないと言うのは、とてももったいないと思っていて、私のボランティアと同じタイミングでしていた、北海道の女性も奨学生に選出していただいて彼女は留学することになっているんですが、こうした広報活動ですとかこれまで行ったことのある先輩と、これから行く後輩のみなさんを今ズームですとかFacebookなどでツールはいろいろありますので、そういったオンライン上での交流と言うのを促進していければ、というふうに考えております。最近嬉しいニュースがありまして、マンチェスター大学の方から連絡があり、なぜだかちょっとよくわからないんですけども、私の現地での経験と今やっていることを、大学のウェブサイトで紹介したいと言う事でしたので、そちらも何を書こうかと言う感じで、今まだ書いている最中ですが、おそらく8月の下旬か9月位には記事になると思います。最後にこういったオンラインスクールを立ち上げたことで、もっとこのロータリーの制度、一口に国際協力と言いましても国連職員になるにはどうしたら良いかですとか、先輩の背中が遠く見えてしまっていますが、もっと身近な存在として一生懸命頑張ったら、国連職員でも国連ボランティアでも、国境なき医者でも、何でもなれるんだよと言うのを、今の若い世代に伝えていきつつ、私自身がそういった後輩たちの光といいますか、そういった存在になれるように、これからも精進していきたいと思っております。

長くなりましたがご静聴有り難うございました。

ハイライト米山 Vol.244 より抜粋転載

2019-20年度の寄付金結果

2019-20年度の寄付金は約13億3,600万円でした。新型コロナウイルスの影響により2月から寄付が徐々に減少し始め、最終的に前年度比5.3%減(普通寄付

金:1.3%減、特別寄付金:7.1%減)、約7,500万円の減少となりました。2019年度予算は13億7千万円で見積りましたが、予算達成とはなりませんでした。

このような苦しい状況にも関わらず、皆さまからいただいたご支援に心より御礼申し上げます。

今年度も引き続き、ご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

事務局長交代のお知らせ

6月30日をもって岩邊俊久が事務局長を退任し、7月1日より柚木裕子が新たに事務局長に就任しました。

【就任のご挨拶】ロータリー米山記念奨学会は設立以来、多くのロータリアンの皆さまのご尽力で公益財団法人として立派な業績を築かれてきました。その組織が円滑に運営されるよう事務局の立場から支えていき、次へしっかりと繋ぐというのが私の役割であり、その責任を感じています。事務局職員と力を合わせ、広くコミュニケーションを図りながら透明性を高め、信頼していただける事務局づくりを心掛けてまいります。コロナウイルス禍によるさまざまな課題に直面していますが、役員の方々の皆さまから知恵をいただき、ロータリアンの方々の活動に寄り添いながら、米山奨学事業を支えていくことのできる組織を目指したいと思います。今後とも皆さまのご理解とご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

柚木裕子プロフィール

愛知県出身。1972年から1年間、財団奨学生としてフランスに留学。93年より第2780地区ガバナー事務所勤務を経て2020年7月から現職。日本ロータリー学会幹事。第2780地区かながわ湘南RC創立幹事。

米山学友中心のクラブが医療支援プロジェクト

米山学友を中心に設立された東京米山友愛RCと、その子クラブである東京米山ロータリーEクラブ2750が「医療物資支援プロジェクト」を実施しました。

このプロジェクトはメディカルマスク、感染症防止キット(防護服と靴カバー)、医療用ゴーグルを市場価格より安価に提供するもので、ロータリー関係者に広く呼びかけたところ、全国のロータリアン個人のほか、10地区41クラブなど約100件の申し込みがありました。購入者からは「おかげで地元の医療機関に寄贈することができた」、「まとまった数の医療物資を手に入れるのが大変だったので助かった」など、感謝の声が寄せられています。この活動により、東京米山友愛RCはガバナー賞、東京米山ロータリーEクラブ2750はガバナー特別賞をそれぞれ受賞。また、国際ロータリーからは世界で活躍するCOVID-19の活動の一つとして取り上げられ、実行委員の朴貞子さん(世話クラブ:岸和田RC)が2020年ロータリーバーチャル国際大会で活動を紹介しました。4月に創立10周年を迎えた東京米山友愛RCは、新型コロナウイルスのため記念式典や奉仕活動の中止を余儀なくされました。そんな中、ロータリアンとして何か行動したいという思いから、林芳さん(東京麻布RC)と王輝さん(瀬戸RC)、中前緑さんが発起人となって立ち上げたプロジェクト。朴さんは「オンラインでも、最高の仲間と最高の奉仕活動ができたことを誇りに思います。米山最高!」と、コメントを寄せてくださいました。